

人財彩時記

やまもと ゆうき

認定特定非営利活動法人こどもステーション山口 理事長 山本 有希さん

子どもたちが文化・芸術に親しむ機会を提供する活動に長年携わり、芸術文化活動の発表、交流の場となっている「クリエイティブスペース赤れんが」の館長もされています。理事長を務める団体は、平成30年山口県選奨 教育功労を受賞されました。



活動のきっかけは何ですか。

以前住んでいた浜松市で、「子どもに夢とたくましい創造力を」と書かれたパンフレットを見かけたことが、「こども劇場」という活動を知ったきっかけです。その文言にワクワクし、すぐに入会しました。舞台鑑賞には無縁だったのですが、子どもと一緒に観るうち、私自身が舞台を観ることが好きだったのだと気づきました。

その後、夫の転勤で山口市に引っ越してから、こども劇場は全国的な活動なので山口にも団体があるだろうと思い、当法人の前身である山口おやこ劇場を探し、すぐに入会しました。山口には知り合いがいなかったのですが、入会するとあつという間に友達が増え、子どもの面倒を見合う中で、子育ての悩みを共有でき、子どもにとっても私にとっても居心地の良い場所でした。

会員として活動を楽しいも中で、徐々に運営に携わるようになり、理事長に就任しました。引き続き、理事をはじめとした頼もしいスタッフと納得がいくまで話し合い、チャレンジを重ねながら活動を続けています。

活動を継続・発展させる秘訣は何ですか。

私たちは、大人と子どもと一緒に舞台公演を観る「舞台鑑賞活動」と、こどもキャン

プ等の「体験活動」を軸に、会費・会員制で活動しています。

発足して44年目を迎えますが、社会情勢や子どもたちの置かれている環境の変化を日々感じています。そんな中でも、常に「わたしの子どもから、わたしたちの子どもへ」というコンセプトを大切にしています。自分子どもだけでなく、その隣の子とも同じ意識で子育てをしたいという意味です。そして、子どもたちが生の舞台を観たり、さまざまな遊びや体験など、たくさんの人との出会いの中でいきいきとした子ども時代を過ごし、社会に巣立っていけることを願っています。

特に近年は、スマートフォンやウェブの発達によって、大人も子どもも面と向かって話をする機会が減っていると感じています。小学校区単位でのブロック会や、異年齢の子どもたちが一緒に活動する体験活動等を通じて、お互い顔を合わせたコミュニケーションができる機会を作っています。

また、活動の良さを感じた会員が、知り合いなどに自分の言葉で楽しさを伝えてくれることほど心強く、ありがたいものはありません。活動に共感してくれる人がいるからこそ、続けていきます。

今後、挑戦したいことがありますか。

これからは、活動の支援者を増やしたいと

思っています。子育て中の人たちが中心となって活動してきましたが、子育て世代ではない人にも、寄付や、専門的な知識やスキルを提供してもらうプロボノ等で支えてもらいたいです。金銭の寄付は、幅広く声をかけることができます。一方、プロボノはスキルを持ちつつ、活動に共感してくれる専門家に出会う難しさを感じています。けれども、「子育て世代だけ」「会員だけ」から脱却し、活動を広げていくために、力を入れていきたいテーマです。

それから、後継者を育てることも進めたいです。学校や地域など子どもを取り巻く環境や、今必要なこと、求められていることが一番分かる子育て現役世代に活動を引き継ぎたいと思っています。

これからも、広げること・つなぐことを大切に、頼もしい仲間とともに活動を続けていきます。

(取材・小柳、柳澤)

